

# 島根県林業公社の概要



## INDEX

1. 林業公社の成り立ち
2. 林業公社の分収造林契約の仕組み
3. 林業公社が果たしてきた役割
4. 林業公社が抱える課題
5. 今後目指すべき方向
6. 林業公社第4次経営計画の推進



## ～はじめに～

当公社は、森林資源の造成と農山村経済の振興を図るため、昭和40年に設立され今年で51年目を迎えます。

当公社は、島根県における森林整備の重要な担い手として、県内民有人工林の11%を占める約2万2千haの森林を経営し、森林の整備を通じて山村地域において雇用の場を確保するなど山村経済の振興にも貢献してきました。

林業を取り巻く状況は、50年の間に大きく変化いたしました。木材価格は昭和55年をピークに大きく低下する一方、労務単価は上昇し、山林経営は非常に厳しい環境となっています。このような状況の中、当公社では、伐採時期が到来した森林がこれから次第に増加していきます。

これからは、いよいよ収穫伐採を開始し、製材用材、合板材、製紙用・バイオマス発電用のチップ材等として、県内のニーズに対応すべく、公的セクターとして最大限の努力を重ねていきます。

一方、CO2の削減や土砂災害防止、水源涵養など森林の持つ公益的機能の重要性が注目されるようになっており、公的森林整備の担い手として健全な森林整備を引き続き行っていくことも重要です。

また、これからの林業を担う人材の確保・育成も当公社に課せられた大きな役割であると考えています。

当公社に課せられた責務をよく自覚し、県民の皆様の期待に添えるよう努めてまいります。